
僕（光）と彼女（闇）と召喚獣

まり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕（光）と彼女（闇）と召喚獣

【Nコード】

N9318Z

【作者名】

まり

【あらすじ】

私の光はどこ？ 生まれてから不幸でしかない彼女は文月学園に転校してきた 『彼女の周りにいると不幸になる』と噂される彼女に幸せ（光）はー 明久「不幸？そんなのは不幸じゃないよ 僕みたいに毎日死と隣り合わせって訳じゃないでしょ？」

第0問 初対面は夢の中？（前書き）

まりでーす

男だよ一応

この作品二作目です

一作目のバカと恋愛とAクラスとへいこうして書きます

第0問 初対面は夢の中？

教えてください

なぜ私は一人なんですか？

なぜ私は不幸なんですか？

なぜ私には希望がないんですか？

教えてください

私の光はどこにいるんですか？

「ううん。もう朝？」

僕は夢を見てたみたいだ

悲しくて寂しくて……

光を探している

「僕に訴えかけるように聞こえたけど……気のせいかな？」

変な胸騒ぎがする　なぜかとても不味いような……
っと思つて時計を見た

8時10分

今日は新学期

これは……

「遅刻だあ————————！！！」
「！！！」

文月学園

『ここが私の通う新しい学校……』

いままで何度も転校をくりかえしてきた　その度に学校に何かが起
こり廃校となつた

『………光』

ここに私の光はいるのかな？

「吉井、遅刻だぞ」

「鉄じー！西村先生、おはようございます。」

「いま鉄人と言わなかったか？」

ぬうするどい 流石は鉄人だ

「あはは 気のせいですよ。」

「そうか？ それより吉井、他に言うことがあるだろ」

「えーと、今日も肌が黒いですね？」

「お前は遅刻の謝罪より俺の肌の方が気になるのか？」

「そつちでしたか。すみません。」

だってホントに真っ黒なんですよ？鉄人ってあだ名もそれが由縁ですから

「まあいい、それより受け取れ」

鉄人は僕に一枚の封筒を手渡した

「そこに振り分け試験の結果が入っている」

「ありがとうございます。」

振り分け試験 この文月学園の特殊な制度の一つである 成績順に A～Fまであり50人ずつ分けられている

「それにしても何でこんな面倒くさいやり方でクラスを教えるんですか？」

掲示板に貼れば楽なのにー

「そういつな これも教育方針の一環だ」

「ふーん。そんなもんですかね？それにしてもこの封筒開けにくいですね。」

「上の方をちぎって開けるんだ それと吉井、いまの行為も含めて俺は、吉井はひよっとしたらバカなんじゃないか？」と思っていたんだ

「それは大いなる間違いですよ。それだと節穴ってあだ名がつけられちゃいますよ？」

「ああ 俺は間違っていた」

今回はテストの出来はよかった 10問に1問は解けたし……多分CかDってところだろう

「俺はその結果をみて確信した」

ビリビリ

封筒を破り中にある紙を取り出す

吉井明久……Fクラス

「お前は正真証明のバカだ」

僕の最悪な文月ライフがスタートした

第0問 初対面は夢の中？（後書き）

まだ物語は始まったばかり

次回がんばるよー

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9318z/>

僕（光）と彼女（闇）と召喚獣

2011年12月29日02時51分発行